

現庁舎地利活用案

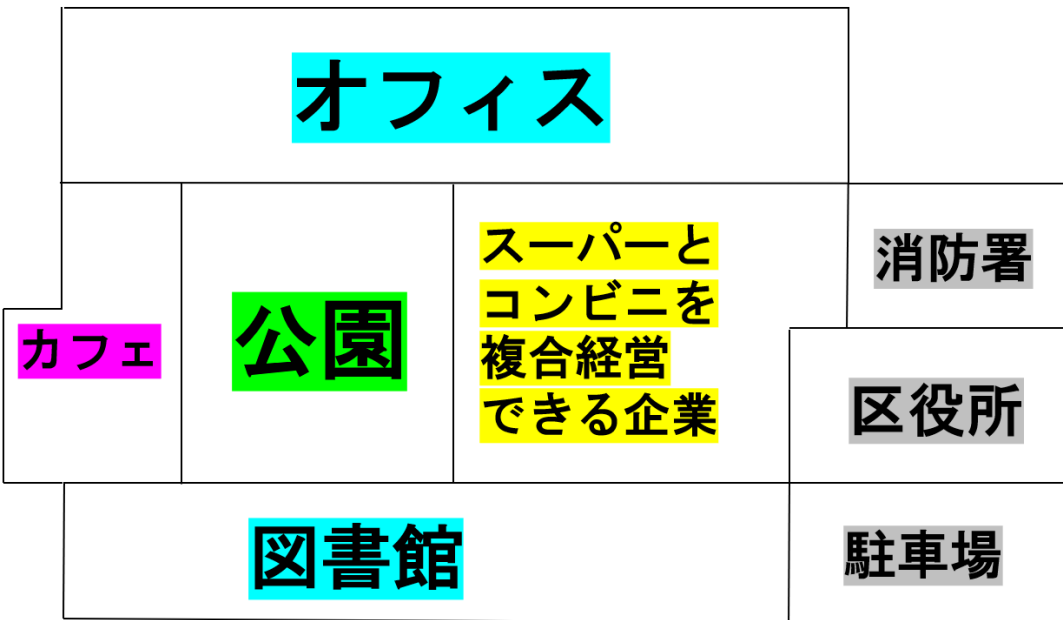
埼玉大学教育学部附属小学校

6-3

概要

7班

市役所跡地の図面



ユニバーサルデザイン

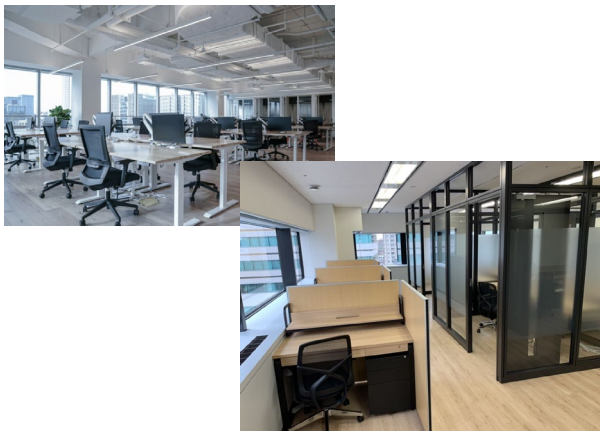
老若男女いろいろな人が住みよい街へ



- ▶ **オフィス**
会社などが利用するのに加えて、個人などの1人を相手としたスペースを作る。
- ▶ **カフェ**
様々な年齢の人が来ることができる。
- ▶ **スーパーとコンビニを複合経営できる企業**
服や雑貨日用品など品揃えをよくし、便利な場所にする。
- ▶ **公園**
少子化の時代子供が比較的多い地域なので、いろいろな人が遊べるところを作る。
市役所は木が多いので、少しでもここに移し、緑が豊かな公園にする。
- ▶ **図書館**
本を読むだけでなく、個人で勉強できるスペースを作る。
- ▶ **駐輪場、区役所**
今まで通り必要
- ▶ **フリーWi-Fiを設置し、PCも使えるようにする。**

実例・想像図

オフィス



カフェ



スーパーとコンビニを複合経営できる企業



図書館



公園



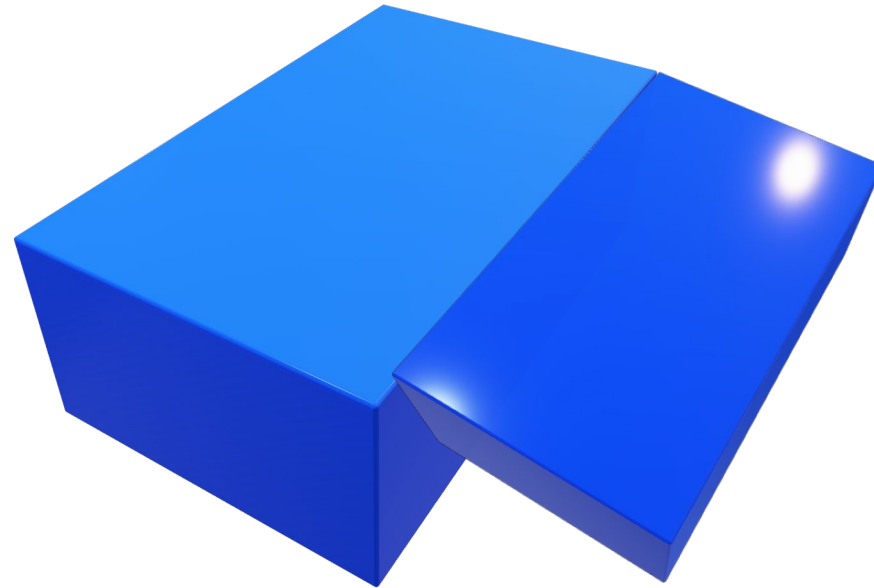
詳細①

—オフィスについて—



建物の構造としては5階から6階建てにして、その横に個人が利用できるスペースにする。このスペースは3・4階で、面積としては、普通のオフィスのほうを広くメインとする。

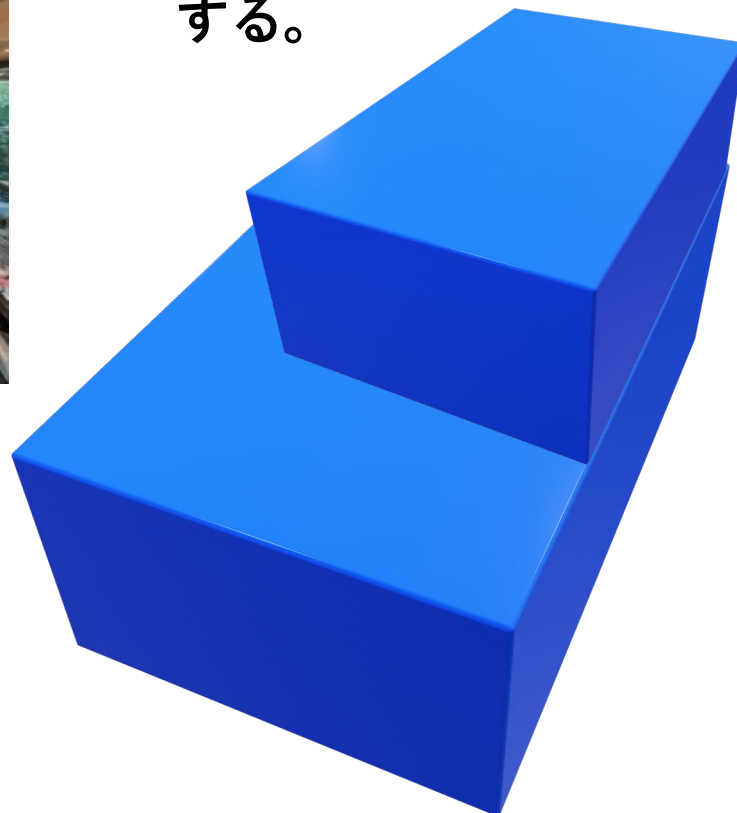
オフィスは主に大企業の一部門や、埼玉県で生まれた将来性のあるベンチャー企業を誘致する。またその隣には個人のスペースも設けてレンタルオフィスとしても利用できるようにする。またオフィス本体の部分は会社として使う許可証が必要だが、個人のスペースはアプリを活用して入れるようにして、安全性と管理性を両立する。そしてここにはWi-FiとフリーPCも用意する。市は利用料を得ることができる。



詳細②

—カフェ&バーについて—

カフェ本体は2階建てで、その上に展望デッキを置き、その横に公園を設けることで見晴らしをよくする。



早朝は高齢者が利用できる喫茶店、昼間は子供連れのお母さんが利用するカフェとして、夜はおひとり様や家族が利用できる健全なバーとしての役割を担うことによって、いろいろな人が利用できるようになる。そして店舗で提供する食材はできるだけ埼玉県産のものを使う。そして隣に公園を設けることによって緑を感じながら楽しめるようにする。

詳細③

—スーパーとコンビニを複合経営できる企業の誘致—



スーパーとコンビニ
が一体経営できるこ
とが重要！



スーパーとコンビニ双方で幅広い年齢層をカバーし、老若男女みんなが買い物を楽しめるようなものにして、地域の利便性を高める。

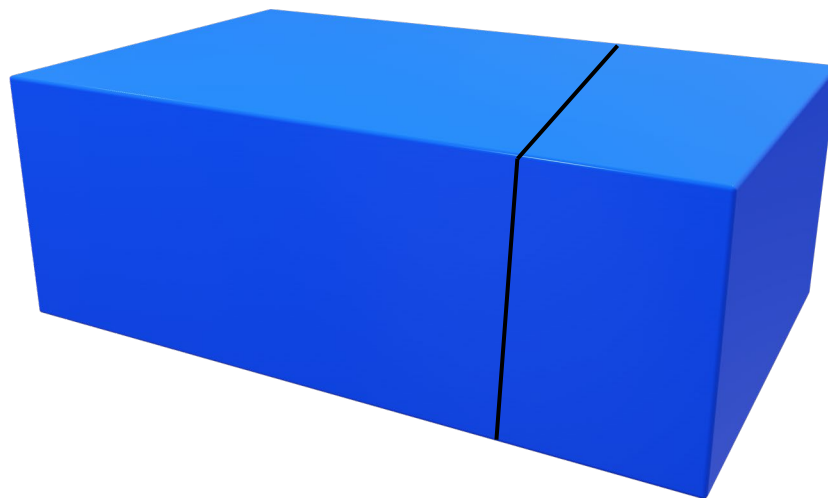
日中はスーパーを主とし、夜間や休日はスーパーの商品をシェアし、廃棄0を目指す店舗とする。またコンビニは休日、夜間の行政出張所の役割を果たし、地域貢献を果たす。また取り扱う商品は地産地消ということで埼玉県産のものを増やし、県全体の活性化を後押しする。

詳細④

—図書館について—

建物の形はシンプルだが、中の部分を用途によって二つに分ける

「浦和」という「文教都市」のブランドを活かし、教育に特化した図書館を設置する。一般図書は既存の図書館に任せ、子供の教育や専門性を高める日本で類を見ない公共の専門図書館を作る。また宿題やテスト勉強などができる、学習スペースを作り、子供の意欲、自主性を高めるスペースを提供する。

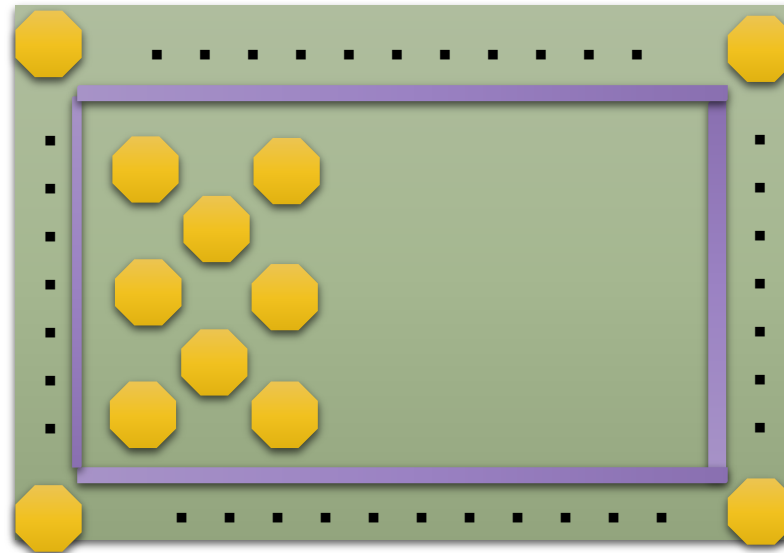
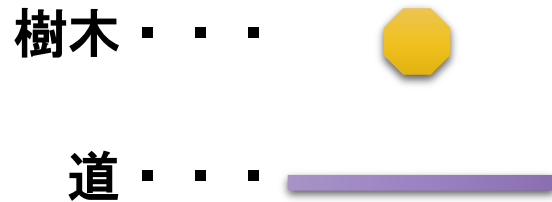


詳細⑤

—公園について—



この辺りは子供が多い地区なので、比較的大きい公園を設置することで、子供たちの遊び場にする。また公園の中は、周りに樹木を植えて囲い、中には天然の芝生でできた広場と、樹木で作った小さい森のようなものを作る。



市役所は緑が多く市民から親しまれているということなので、樹木をできるだけ集めて、植えなおすことができればよい。

最後まで見ていただき、ありがとうございました

7班